

## 公 表

## ( 第 4 9 回技能五輪全国大会 ・ 貴金属装身具職種 )

## 付 記 事 項

- ① 最近、特に基礎作業が疎かにされる傾向があります。  
 今回は、仕様を詳細に述べて、基礎作業を重視することにしました。  
 国際大会では、未完成品を失格とせず、作業の確実性を判定しています。  
 国内大会でも、未完成を失格にはしませんから、丁寧に作業をしてください。
- ② ろう付設備は、都市ガス・圧縮空気（エア）の組合せのものに限ります。  
 他の設備は、使用できません。酸素ガスやその他の可燃性ガスの使用は不可。  
 トーチを固定する方は、固定用の台を持参してください。作業台はリースなので、釘を打ったり、キズを付けないようにお願いします。  
 ＊（通常のトーチスタンドは用意してあります。）
- ③ 持参工具等については、課題に書いたとおり、特に今回の作品のために用意したけがき板や展開図・案内図等の持込を禁止します。また課題の図面をコピーして貼り付けてもいけません。その他の工具類については、特別に課題を対象としたものでなければ弾力的に対応します。不審があれば、事前に、具体例を示して問い合わせてください。
- ④ ダイヤ用下穴の裏取り作業は、国際大会で鑿（たがね）の使用が認められましたので、国内大会でも使用を許可します。
- ⑤ 矢坊主（パンチ）は、通常に市販のものを多少加工したものでも使用が可能です、特に、課題のための打ち型（あわせ型・パンチ・ダイ）の使用は禁止します。
- ⑥ 会場に用意するハンド・ドリル・モーターのチャックの径は、2.35 mmを基準とします。  
 フットコントローラーは、用意しませんが、取り付け可能なものを用意しても結構です。
- ⑦ 作業台には、かすがいが取付けられています。すり板と楔（くさび）を持参してください。  
 また、金しきも、リースなので痛めないでください。
- ⑧ 作品は、競技終了後、参加選手に対し公開しますが、如何なる場合でも返却はしません。
- ⑨ 主催者より、コーチ・同伴者等の競技場への立ち入りを禁止するよう指示がありました。  
 ＊見学コーナーを設けますので、下見・準備より競技終了まで、選手・競技役員以外は、競技場（作業場）に入らないでください。
- ⑩ 毎回、材料の消耗が大変多く困っています。 作品と残材（粉を含む）を、一層厳重に計量し、過剰な消耗をした場合には、その量に応じた減点をしますので注意してください。  
 ＊残材への異物の混入は、国際大会では、厳しく判定されました。必ず、粉焼き用の皿等を持参し、ごみや異物が返却時に混入していないよう注意してください。  
 ＊回収・掃除を徹底するため、ワイヤーブラシ・やすりクリーナー等を持参してください。  
 ＊企業の先輩・学校の先生より、材料の取扱いと回収について指導を受けてください。
- ⑪ 製作図の製図方式は、国際大会・全国大会の規定に従って第三角法で正確に描いてあります。しかし、コピーが伸縮して図面上の読取り寸法と指示数値とに差異がある場合もあります。その場合は、指示寸法を優先してください。  
 （製作図面の大きさは、必ずしも完成作品の実物大の大きさとは限りません。）

**（ 第 4 9 回技能五輪全国大会 ・ 貴金属装身具職種 ）**

- ⑫ 材料は、競技時間節約のため事前加工をしたもので、作業に支障のない限り、寸法・質量の差異に固執しないでください。また、材料の欠陥は発見した時点で申告してください。交換または、競技者の不利にならないように対処します。（事後申告は、認めません。）
- ⑬ 下見会場で、競技の完全な準備、課題説明・注意事項の徹底、ろう材や酸処理用溶液のテストを行いますから、必ず工具類を持参してください。
- ⑭ 酸処理溶液は、持参工具一覧に記載したように、デューセルまたはニアシッドのどちらか 1 種類の使用を常温（加熱できません）にて許可します。  
\* 希硫酸溶液は、共用の恒温加熱装置で加熱し、選手全員で使用します。  
（会場内の換気に配慮するため、作業台において希硫酸溶液の個別の使用はできません）
- ⑮ フラックス・ほう砂には、いろいろなものがありますが、母材・ろう材との適合性・酸処理の適否によって、作業に支障をきたすことがあります。事前に、作業が円滑に進むように研究をしてください。フラックス・ほう砂・酸化防止被膜剤等に制限はしません。適当な何種類かを持参しても結構です。酸処理では、毎回完全に処理しないと次第に支障が大きくなりますので、注意してください。
- ⑯ 作業台は、公平に抽選で決めます。選手も指示するまで会場に入らないでください。  
どの作業台も競技場の作業には支障ありません。作業台に対しても改造する事は、認めませんので注意してください。また、作業台に対する高さは、椅子の高さで調整してください。